

優秀賞



景を縫う暮らしを辿って

伊藤愛莉さん、前田剛さん、吉野歳人さん
(大分大学)

「土地の力を呼び起こす建築」という今回の課題の中で、私たちは、中央構造線の影響でできた起伏のある「地形」が今の佐賀関の暮らしや産業を作る重要な要素を担っているのではと考え、本課題において着目する土地の力を「地形」を背景として築かれた暮らしや産業ととらえた。

佐賀関の歴史や現状を見ると、沿岸部の埋め立てによる居住区域の拡大や、車移動の台頭、地域住民の高齢化に伴う生活範囲の縮小により、佐

賀関を作ってきた地形の面影を感じる機会が減少してきているのではないかと感じた。また、高齢化が進む地方の集落が抱える共通の問題として、家の中だけの暮らしが、人との関係性を希薄にしている点があるのではないかと感じた。

そこで、地方集落らしい「おすそわけ」という贈与の関係がもたらすコミュニティーを計画の糸口とし、佐賀関の地形を「作る」「縫う」「使う」ことで、佐賀関にある環境らしいおすそわけが再度暮らしを地形と結び合わせ、豊かな佐賀関を作っていく提案とした。

大分大学 伊藤 愛莉さん、前田 剛さん、吉野 歳人さん